

第5学年 道徳学習指導案

ろ組 男子 19 名 女子 19 名 計 38 名

指導者 益 満 陽 平

1 主 題 名 親切にすることとは

2-(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする中で、お互いの気持ちが通じ合い、楽しい生活になることを理解し、だれに対しても親切にしようとして努力してきている。しかし、相手からの謝辞を期待する打算的な考えや自分本位な考えなどから、表面的な親切になっていることもある。このようなことから、この期の子どもたちに、相手の立場を考え、判断して行動することが、他者との信頼関係を深め、互いに支え合って生活を明るく送ることにつながることを理解させ、だれに対しても立場や気持ちを推し量りながら、進んで親切にしていこうとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、困惑している他人に対して親切な行動を行った際に、自分が期待していた評価を周囲から受けられない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、相手の立場を考え、判断し、行動することによって、互いに気持ちが通じ合い、支え合って明るい生活を送ることができることを理解し、だれに対しても進んで親切にしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、相手との信頼関係を築くことだけでなく、互いに助け合う社会をつくっていくことにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って、親切にしていこうとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

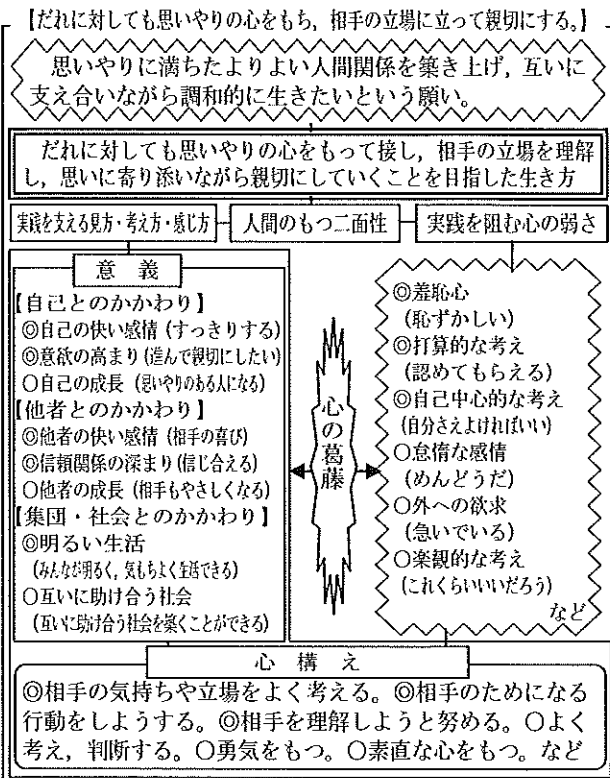
(2) 指導の基本的な立場

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることとは、相手の置かれた立場を自分ごととして捉え、思いに寄り添うこと、相手のことを考えた自分の気持ちを行動に表すことととらえることができる。

ここでは、思いやりに満ちたよりよい人間関係を築き上げ、互いに支え合いながら調和的に生きたいという願いを基に、だれに対しても思いやりの心をもって接し、相手の立場を理解し、思いに寄り添いながら親切にしていくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、だれに対しても思いやりの心を



もち、相手の立場に立って親切にすることで、自他共に快い感情になり、信頼関係が深まること、さらには、みんなが気持ちよく明るい生活を送ることができたり、互いに助け合う社会になったりすることなどの意義を理解させる。それらの実現に必要な心構えとして、相手の気持ちや立場をよく考え、相手のためになるような行動をする、相手を理解しようと努めることなどが大切であることも理解させる。さらには、意義や心構えの理解を深めるために、相手の立場に立って親切にしたいと思いながらも、羞恥心や打算的な考えなどの心の弱さから、なかなか実践できないことがあることにも気付かせる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「くずれ落ちた段ボール箱」(文溪堂)を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

友だちと買い物に訪れた主人公が、店に積み上げられた段ボール箱の山を崩してしまい、困惑している孫とそのおばあさんに出会う。おばあさんのかわりに友だちと段ボールを片付けていた主人公は、店員から段ボールを崩した人物として扱われ、注意を受けてしまい、嫌な気持ちになる。その後、おばあさんから礼を言われるものの複雑な気持ちで過ごしていると、主人公たちの親切な行動を知った店員から感謝の手紙が学校宛てに送られてくるという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために資料の一読から、崩れた段ボールの片付けをどうしようかと困惑しているおばあさんに対し、主人公が手伝う場面に焦点化させる(計画性の向上)。そして、主人公のおばあさんに対しての親切な行動を店員から勘違いされたり、おばあさんからお礼を言われたりした場面で、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることにかかわることの意味やよさ(意義・心構え)を多面的に追究させる(責任感の高揚)。その際、重点的に扱う意義・心構えについて、自分の生活の経験を基にした根拠を明確にしながら対話活動を行う(協調性の向上)。さらには、自分の考えていきたい問題をまとめる中で、学習を通して変容した自分の考えやその理由、実際に生かせそうな生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる(自己肯定感の向上)。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、だれに対しても思いやりの心をもって接し、相手の立場を理解し、思いに寄り添いながら親切にしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちのだれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることにかかわる経験やその時の心情、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)等についての認識は以下のとおりである。

〔表1〕 親切にできた経験(総反応数40)とその時の感情(総反応数53)

経 験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
お年寄りに電車内で、席を譲った	20	相手の気持ちを考えた	34
落し物を拾って渡したり、重い荷物を持ったりした	11	自分にできることは何かを考えた	5
下級生のけがへの対応(声かけ、保健室へ案内)	5	自分もしてもらったことがあった	3
忘れ物をした友達に道具を貸した	2	もし自分だったらと考えた	1
校庭に落ちていたボールを片付けた	1		
目の不自由な方に信号が変わったことを教えた	1		

〔表2〕 親切にできなかった時の心情(総反応数39)

心 情	反応数(人)	心 情	反応数(人)
羞恥心(恥ずかしい)	10	楽観的な考え(だれかがやってくれる)	6
打算的な考え(お礼を期待する)	10	無関心(自分には関係ない)	4
自己中心的な考え(急いでいる)	7	不安(上手くできなかったらどうしよう)	2

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識 総反応数（119）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対自己		対他者		対集団・社会	
うれしい・すっきりする	25	うれしい・すっきりとした気持ちになる	17	楽しく明るい気持ちで生活できる	20
進んで親切に行動できるようになる。	13	お互いに信じ合うことができる	10	お互いに助け合う社会になる	19
自信をもつことができる	8			お互いに信じ合うことができる	4
自分にも親切が返ってくる	3				

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識 総反応数（42）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
相手の気持ちを考える	14	いつでも、だれに対しても親切にする	10	相手のためになる行動をしようとする	2
自分から進んで行動する	13	勇気をもつ	2	周りを見て考えて行動する	1

[表1]の「相手の気持ちを考えた」「自分にできることはないかを考えた」等の感情が多いことから、相手の気持ちや立場を考え、だれに対しても親切にすることのよさを理解し、行動した経験が多いことが考えられる。その反面、[表2]から「恥ずかしい」「お礼を期待している」といった感情から、常にだれに対しても親切な行動をとることの難しさ、他者からの礼は当たり前であるといった気持ちがあることにも気付いていることがわかる。また、[表3]から、「自分だけでなく、相手や社会全体が明るい気持ちで生活することにつながる」「お互いに助け合う社会になる」という意義を感じている子どもが多いことがわかる。しかし、[表4]から「相手を理解しようと努める」「相手のためになる行動をしようとする」といった相手の立場を自分ごととして捉え、思いに寄り添うような気持ちや考えを感じている子は少ない。

これらの実態から、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることとは、どのようなことを深く追究させる必要がある。さらに、子どもたちが捉えている「自他共に明るい気持ちで生活できる」「互いに支え合う社会につながる」というよさは、具体的にどのようなよさなのかを自分の生活とのかかわりを意識しながら追究させるようにする必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、互いの考えを比較し、関係付けながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、より切実感のある問題意識をもたせ、それを追究する中で、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせていく。そして、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることの生き方の意味やよさを友だちと協力しながら（協力）、主体的に追究すること（参加）を通して、理解し、実感を深める中で、これまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していく（尊重）ようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、子どもたち自身が捉えている他者に対する親切な行動とはどんなことか、実際の生活場面で親切な行動ができているかを考えさせ、疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする（見通し）。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、この内容にかかわる自己の生き方は、どんな意味があり、よさがあるのかを追究させたりするために、ここでの見方等について十分に深めたり広げたりできるようにする（多面・総合、吟味）。そのために、主人公の親切な行動が店員に勘違いされた場面に焦点化し、だれからも礼が無かった場合の主人公の心情を追究させたり、親切な行動がどのようなよさにつながるかを追究させたりする。その際は、自分自身の生活経験から類推して、考えやその根拠を明確にし、お互いの考えを比較させたり関係付けさせたりしながら対話活動を行う（コミュニケーション）。特に、グループや全体で話し合う場を設定（協力）して話し合わせながら、多様な見方・考え方・感じ方に気付かせる。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これから生かしていこうとする意欲を高めさせるために（尊重）、自分の生き方を振り返らせる。その際は、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それはどのような生活場面で生かせそうかを視点に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることにかかわる自分自身の生き方を見つめ、だれに対しても進んで親切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることについて、相手を理解しようと努め、相手のために行動をしようとするという意味やみんなが気持ちよく生活でき、助け合う社会に繋がるといったよさ等を自分の生き方のかかわりを通して理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

道徳的価値に対する見方等を深めたり、広げたりさせるために（多面・総合）、親切な行動をだれからも評価をされなかった場合の主人公の心情を考えさせ、親切にすることの意味を追究させる発問を行う。さらに親切な行動が、実生活でどんなよさに生かされているかを話し合わせたい。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 相手のことを考えることが煩悩。恥ずかしい。やっても真似された。 親切に行動するとはどういうことで、どんなよさがあるのだろうか。	7	○ 切実な問題意識をもたせるために（見通し）親切な行動について自分が捉えていることと、実際の生活での心情を発表させ、それらの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2 資料「くずれ落ちた段ボール箱」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。 (2) 主人公の親切な行動の意味とそのよさについて話し合う。 ① 道徳的価値の意味について追究する。 【だれからも親切な行動を認めてもらえなかった時の心情】 おばあさんを助けたかっただけだ。 ⇒相手の立場を考えて行動できた。 ⇒もし自分だったら、助けてほしい。 【心の弱さ】 ・恥ずかしい。 ・褒められたい。 せつかく、親切にしたのに、頭にくるな、もうしたくない。 自分は、相手のことを思っていたことがだから、ほめられなくてもいい。	14	○ 資料を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために（参加）、資料を一読する前に、おばあさんが困っている場面を提示し、「こんな場面に出会ったらどうするか。」と問う。 ○ 主人公の気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて類推させるために、共感できるわたしの気持ちから、困っている人を目の前にした時の心情について想起させる。
見つける	② 道徳的価値の意味が生活の中でどんなよさにつながっているかを追究する。 相手を理解しようとして相手のことを考えて行動すれば、支え合って生活することにつながる。 【心構え】 ・相手のためになる行動をしようとする。 ・相手を理解しようと努める。 【意義】 気持ちがすっきりする→また親切しようとする→信頼関係が深まる→みんなが気持ちよく生活できる→互いに助け合える など	14	○ 「おばあさんから店員さんからお礼を言われなかったとしたら、主人公は、どんなことを考えるだろう。」 ○ 道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせ、意味について追究させるために（多面的・総合）、「親切な行動をしなければよかった」、「相手のことを考えたのだから気にしなくていい」といった、互いの考えの背景にある生活経験における心情と関連させる。
深める	(3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えを見比べ、感じたことや考えたことを発表し合う。 相手がどんなことを考えているかを理解しようとするのは、大切なこと。 3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 相手が自分だったら、どんな気持ちか考え、ためになる行動をしようとするのが、親切な行動につながるんだ。電車の中で、自分から席を譲りたい。	8	○ お互いの考えを交流しながら、多様な道徳的価値に対する見方等に気付かせるために（コミュニケーション、協力）、グループで話し合う場を設定する。 ○ 「主人公の行った行動は意味があるのだろうか。そして、どんなよさがあるのだろうか。」 ○ 道徳的価値を大切にすることによって、生活の中にどのようなよさがあるかを追究させるために（吟味）、相手の役に立ったことで気持ちがすっきりしたり、親切な行為が自分に返ってきたりしてうれしい気持ちになった生活場面を想起させて、全体で話し合う。
見通す	4 だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○ 学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせるようにするために（尊重）、自分なりの考えをまとめさせる。その際、「親切とは、相手のためになる行動をしようということ」「お互いの生活を助け合える」といった、今後の生活の中で生かせそうな場面を視点として考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。 ○ 子どもたちの課題が連続・発展し、実践化が図られるようにするために（見通し）、親切な行動が生活の中に生かされている写真を見せながら、説話を行う。